## 大会テーマセッション 3
## 主要疾患に対する臨床試験とリアルワールドデータ、最新ガイドライン

2026 年 11 月 12 日（木） 13:50-15:20　第 3 会場 | 幕張メッセ 国際会議場 2F 201

座長：中村 直樹（聖マリアンナ医科大学 放射線治療学）
座長：石倉 聡（聖路加国際病院 放射線腫瘍科）

### AT3-6
### 頭頸部腫瘍：JCOG1208 を中心に、周術期治療のエビデンスも加えて



中村 聡明 [1]

1:関西医科大学 放射線治療科

頭頸部癌では、根治性を維持しながら治療負担を軽減し、機能と生活の質を守ることが重要である。 JCOG1208 は、 T1-2N0-1M0 中咽頭癌を対象に、予防照射線量の低減と照射範囲の縮小を取り入れた IMRT 単独療法の有効性と安全性を検証した多施設共同試験である。 5 年全生存割合は 88 %、 5 年局所無増悪生存割合は 79 %であり、良好な長期成績を示した。本講演では、対象患者の背景、再発形式および有害事象を含めて結果を紹介し、早期中咽頭癌に対する治療強度適正化の意義と課題を考察する。

一方、切除可能な局所進行頭頸部扁平上皮癌では、周術期治療に免疫チェックポイント阻害薬を組み込む第 III 相試験の結果が相次いで報告された。 KEYNOTE-689 では標準治療への周術期ペムブロリズマブ追加により無イベント生存期間が改善し、 NIVOPOST-OP では高リスク切除例に対する術後化学放射線療法へのニボルマブ追加により無病生存期間が改善した。これらの結果は、手術と術後放射線治療を軸とする治療体系に ICI をいつ、どのように組み込むかという新たな課題を提示している。 JCOG1208 の成果と周術期治療の最新エビデンスを通して、頭頸部癌治療における放射線治療の現在地と今後を展望する。

**略歴**

1996 年 神戸大学医学部医学科 卒業
1996 年 大阪大学医学部附属病院 研修医
2002 年 大阪大学大学院医学系研究科 修了・医学博士
2002 年 シカゴ大学 放射線腫瘍科 博士研究員
2005 年 大阪大学大学院医学系研究科 助手
2007 年 大阪府立成人病センター放射線治療科　診療主任
2012 年 京都府立医科大学特任講師
2015 年 関西医科大学 講師
2016 年 同 准教授
2023 年 同 診療教授　現在に至る

所属学会
米国放射線腫瘍学会
欧州放射線腫瘍学会
日本頭頸部癌学会
日本膵臓学会

受賞歴
2006 年 米国放射線腫瘍学会 Top 10 Most Viewed Abstracts
2010 年 欧州放射線腫瘍学会 Best Poster Award

▲ TOP

2022 年 日本放射線腫瘍学会 地域貢献賞
2024 年 日本放射線腫瘍学会 Plenary Session 選出
2026 年 高精度放射線外部照射部会 最優秀賞
2026 年 欧州放射線腫瘍学会 Top-Scoring Abstract